

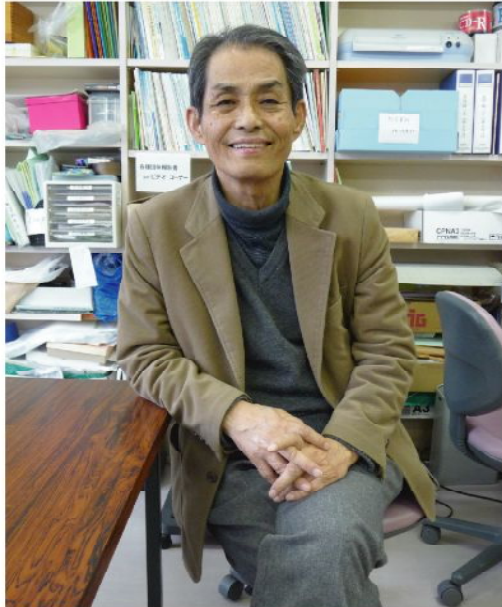
# サポ通

さばえNPOサポート通信

Vol.09

発行日■2010年4月10日  
発行■(特)さばえNPOサポート  
編集■広報サポート事務局

サポ通は、(特)さばえNPOサポートが自主発行している機関紙です



▲「この4年間、事務局の皆が自分を支えてくれたことも、大きな幸だった」と話す鈴木理事長。

**個性の強い人が集まって  
主張を自由に語り合い…  
お互いが、それを心からの敬意で  
受け止め、共有できる…  
さばえNPOサポートの人たちには  
これからも、そんな姿でいて欲しいと  
思っています。**

平成21年度をもって勇退される鈴木外治理事長。今回は、この4年間のふりかえりと、今後への期待と思いをうかがいました。

## ●まず、この4年間への感想をお聞かせ下さい。

「正直、よう自分みたいな者が、4年も務まった」と思っています。

もちろん、いい加減に受けたということではないですが、最初の1年は、NPOの社会的な役割や自分の立場など、全てが手探りと勉強でした。

さばえNPOサポートという団体は、県内外でもそれなりに知られ、評価されていたし、歴史もあります。

理事長をやらせてもらうことで、この団体や地域に対して、なにがしか自分なりの貢献が出来るかどうか、色々考えたこともあります。

それでも2年目からは「NPOのなんたるか」を、もう少し皮膚感覚でわかるようになってきたと思っていますが…

## ●という？

結局、NPOというのは「お金もうけを目的としない団体」と言うことですが、重要なのはそれだけじゃなく、「人のために」「目的を持って」活動する姿勢なんだなと。

ただ、それは団体に限ったことじゃなくて、ひとりの人間としても、同じ意識、行動がとれるわけです。

だから、「自分自身がNPOらしくあること」が、この団体の理事長であることへの、ひとつの“答え”だと思ったんですね。

考えてみれば、これまでの人生で、教員やボイスカウトの一員として関わっていた考え方も通じていて、私としては違和感のない着地点でした。

## ●この4年の成果をどう評価されますか？

多くの市民団体さんや意志を持つ人たちの“受け皿”としての役割は、それなりに果たせていると思います。

最近では、行政、市民の様々な立場から「市民主役条例」の問題点を討論できた『まちづくり実践講座』(2010年1月23日開催)なども、うちならではの意味のある事業でした。

もちろん、これは私というより、理事の皆さんはじめ、力を尽くしてくれた関係者全員の成果です。

## ●最後に、今後のNPOサポートや地域に期待することを。

とにかく、変に組織やシステムの中におさまっているのではなく、それぞれの個性を出して、活発にコミュニケーションしてもらいたいと思っています。

決められたことをやるだけでは、決して世の中は変わりません。

何に対しても、自分の意志を持って当たるからこそ、責任感も生まれ、同じように頑張る他の人に対しても尊敬が生まれ、心からの楽しみが感じられるのだと思います。

自分の個性を大切にするとともに、相手の個性も尊重しなくては、本当の「市民目線」のパワーは生まれてこないでしょう。

地域に対してのことを言えば、まずは隣近所、仲良くコミュニケーションを取ることを大事にして欲しい。個性あふれる人材が育ち、地域に根付くようになるためには、それがとても大切だと感じています。

また、行政と市民とのことと言えば、お互いに、まだまだ“カベ”があるように思います。悪く言えば不信感のようなものだけれど、これも、「上とか下」ではなく、お互いの立場を尊重してコミュニケーションすることが、最高の薬になると思います。

そのカベが消えた先に、「本当の協働」「本当の市民参画社会」が実現することを、私は夢見ています。